

(2) 岐阜県立大垣南高等学校における実践

< 授業実践 >

授業実践に向けての構え

- ・リスニング力の育成のために、教科書に準拠したCD教材、リスニング専用の教材などを活用し、聞く時間をより多く確保する。
- ・単元内容に応じてコミュニケーションを図る場面を全ての科目の中で設定する。特に、既習の語彙、表現、文法事項を使って、ある程度まとまった量の文章を作り、発表する場面を設定する。

第1回授業交流研究会

【期日】 平成18年7月4日(火)

【公開授業】

- ・単元名 True Colors Oral Communication I UNIT 1 Scene 2 "What's your favorite?"
- ・授業学校・学年 大垣南高等学校 1年 Oral Communication
- ・主な提案内容
 - (1) 積極的にスピーチしようとする態度を育てるための効果的な活動設定
 - (2) 他者のスピーチをしっかり聴き、質問を考え、問答するようになるための指導

【授業研究会】

- ・段階的にスピーチを作っていく方法が確立されていた。また、4人のグループで行う中で、それぞれがスピーチ、質問、応答に参加できるように役割分担がしっかりできていた。
- ・生徒が話す時間が多く、楽しんで活動している姿が印象的だった。全体を通して話すことに自信をもった生徒の姿が見られた。
- ・この授業を通してやろうとしていたことの再確認をするために、最後にもう1度ベストスピーチを聴く時間を位置付けると良かった。
- ・活動の設定は工夫されていたが、単元のねらいの明確化が必要である。また、教師の助言や評価に関してもっと研究、工夫する必要がある。

第2回授業交流研究会

【期日】 平成18年11月14日(水)

【公開授業】

- ・単元名 True Colors Oral Communication I
UNIT 3 Scene 10 "What's your Hometown like?"
- ・授業学校・学年 大垣南高等学校 1年 Oral Communication
- ・主な提案内容
 - (1) 人前で落ち着いてスピーチできるようにする指導
 - (2) 説明文作成にあたり、接続詞の効果的な使用を促す指導
 - (3) 他の生徒の住んでいる地域の特色を生かした話題選択

【授業研究会】

- ・Information Gap がある活動が設定されており、実践的なコミュニケーション活動になっていた。また、活動が段階的に設定されており、これまでの授業の中で生徒が一番活動的になっていた。

- ・ウォーミングアップの中で Response の練習をさせ、ALT と JTE がそれぞれの生徒の表現についてそれで良いか確認していた。中学校では、生徒に Response の引き出しをもっと作ってやらなければならないと感じた。
- ・ALT と JTE の役割分担がしっかりできており、Student Centered の活動になっていた。こういった Student Centered の授業を、教科書を活用しながら全ての科目に応用していくことが大切である。
- ・Response に重点が置かれ、聞く側も緊張感をもってしっかり聞けていた。一方、評価表の記入に気をとられて、話の内容に集中できていないところもあった。まず発表の内容をしっかり聞き、その後で発表の仕方について評価するという手順を徹底すべきであった。
- ・各グループの発表後に、ALT が一人一人にその良さを伝え励ましていたことがとても良かった。さらに、次のグループが前のグループの良さを取り入れて、自分達の発表に生かすことができるよう、全体の前で評価すると良い。
- ・一人一人の活動量を多くする形態の工夫が必要である。例えば、2つのグループ同士で発表の練習をすると良い。

<グローバル・スタンダードによる英語力分析調査>

【期日】 平成18年11月16日(木)

【受験者】 1年生40名、2年生2名

【結果分析】

受験者42名の平均点・最高得点共に、Section1(Listening Comprehension)、Section2(Structure and Written Expression)、Section3(Vocabulary and Reading Comprehension)、Total の全てにおいて昨年度より上がっていた。特に、昨年度も受験している2年生については、上昇率が高かった。この結果から、聞く力については、今年度、授業時に聞く時間を増やし、日々の授業の中で「聞くこと」「話すこと」の活動に向かう生徒の意欲が向上した成果が現れているように思われる。しかし、語彙・読解力については、毎週行う単語・構文の小テストの方法を昨年度と変えた成果があまり現れていないようである。今後、小テストの内容、構成についてさらに研究、改善していくとともに、語彙・読解力の養成につながる授業時の取組について研究し、導入していくことが課題である。

<学習環境の充実>

外部講師による講座

【期日】 平成18年12月14日(木)、21日(木)

【対象】 1年生全クラス

【講師】 岐阜女子大学文化創造学部 小林憲一郎先生

【内容】 "What is Communication?"

「コミュニケーションをしていると思う時とは、何をしている時だろうか?」「実際のコミュニケーションの中で、言語と非言語の比率はどれくらいだろうか?(3:7)」等を生徒自身に考えさせながら、たいへん分かりやすく話が進められた。

オーストラリアで生まれ育った小林先生は、日本語習得時のエピソードを通じ、正確なコミュニケーションをするためには、内容も伝え方も大事であることを伝えられた。この講話を聞いた生徒は、授業の中で行われたプレゼンテーションで、間違えることを恐れず、ジェスチャーを交えて一生懸命に伝えようとする姿勢が向上した。



英字新聞、書籍の購入

- ・「MAINICHI WEEKLY」、「ENGLISH JOURNAL」を図書館に設置し、生徒が自由に読めるようにした。英語に興味・関心の高い生徒を中心に、休み時間・放課後に手にとって読んでいる姿が徐々に増えてきた。
- ・ 実用英語技能検定・TOEFL-ITP 受検者用問題集を購入した。受検前の生徒が自宅学習で活用するなど、受検準備に役立てた。

<成果と課題>

授業交流研究会において、中学校の授業を見せていただき、中学校の次のようなよさを取り入れるよう努めた。

「単元で育てる」という考え方に沿って、毎時間続ける活動と、その時間の中心となる活動を組み合わせて、授業の展開が作り上げられていること

題材を生かすために最も効果的な活動を考え、取り入れようとされていること

授業時間内に、個々の生徒やクラス全体に対して、学習の状況に応じた指導・評価が絶えず繰り返されていること

コミュニケーションを図る活動を積み重ねたことがリスニング力の向上につながった。オーラル・コミュニケーションの授業において、ALT との TT において、一人一人に対する Interview、ペアによる Dialogue Making、グループによる Hometown 等のプレゼンテーションを行った。また、聞いた内容に対する Response 活動を取り入れたことによって、生徒にもその大切さが理解され始めた。

中学校で行われている学習活動と高等学校での学習活動の連続性、発展性に配慮し、コミュニケーションを図る活動の設定とその指導・評価の方法について、さらに研究を進める必要がある。

1 時間の授業の中で、帯活動を含めたコミュニケーション活動のための時間と、本文の内容確認、語彙や文法事項の説明の時間をバランス良く組み入れる方法をよりいっそう研究していく必要がある。また、単元を通して全体でひとつの流れのある活動を設定していく必要もある。

外国語科にかかわる全ての学習活動が英語力の向上につながっているということを、生徒が十分理解できるように、活動内容を段階的に組み立てていく必要がある。